■平福百穂 日本画家、歌人。転変の後、独自の画風を開いたが、志し半ばで没した。

ひらふくひやくすい

西南戦争・1877= 秋田県角館で、_円山・四条派の画家として知られた染物屋平福徳庵の四男に生まれる。本名貞蔵。

明治14年政変1881= 4歳：

_幼時より父に画を習い、

帝国大学始・1886= 9歳：

帝国憲法発布1889=12歳：

帝国議会始・1890=13歳：角館小学校を卒業してもまもなく、_父が死去、

大津事件・1891=14歳：_盛岡の豪商で父の恩人でもあった後援者瀬川安五郎に勧められ、鈴木百年に画業を学び、百穂と号し、

日清戦争始・1894=17歳：_上京して川端玉章に入門、{天真画塾}に寄寓し、日本美術協会・日本青年絵画協会に出品。

日清戦争終・1895=18歳：

_結城素明と知り合い、その勧めで、

八幡製鉄始・1897=20歳：_東京美術学校(東京芸大)日本画科に編入学、

Bushidou・1899=22歳：卒業。郷里角館に帰り、秋田の蘭画に接して洋風写実に関心を抱き、

ビアノ国産化・1900=23歳：_日本美術院に対抗し写生主義をとねえ、結城らと{无声会}を組織し、第1回展を開催。以後毎年出品。

田中正造直訴1901=24歳：_再び上京して、素明宅に寄寓。文芸雑誌{新声}の表紙絵・挿絵などを描き、

教科書疑獄・1902=25歳：_伊藤左千夫・長塚節を知り、正岡子規の知遇を得る。母校の西洋画科に入学。デッサンを学び、

日比谷公園・1903=26歳：卒業。電報通信社に挿絵画家として入社。創刊された平民新聞にも、即興的なコマ絵を描く。

日露戦争始・1904=27歳：_太平洋画会研究所が開かれると、夜間部でデッサンを研究し、小杉未醒と知り合う。

日露戦争終・1905=28歳：

満鉄発足・1906=29歳：_斎藤茂吉・島木赤彦らと知り合い、{馬酔木}の表紙絵・挿絵を描く。

韓国反日暴動1907=30歳：_美術雑誌{方寸}の創刊同人となる。北海道に遊び、{无声会}に、アイヌの写生を発表、注目を引き、

アララギ創刊・1908=31歳：結婚し、青山に住む。_国民新聞社に入り、以後20年籍を置くとともに、相撲や議会のスケッチ等が人気を博す。創刊された{阿羅々木}の表紙絵も描く。

伊藤博文暗殺1909=32歳：文展に「アイヌ」、

韓国併合・1910=33歳：長男が誕生するが、離婚。

大逆事件判決1911=34歳：後援者瀬川安五郎が死去。

明治天皇没・1912=35歳：

大正政変・1913=36歳：再婚。_ {无声会}を解散。

第一次大戦始1914=37歳：*大正博覧会に「鴨」出品。文展に「七面鳥」を出品、出世作となる。

21ヶ条要求・1915=38歳：_川端竜子・小川芋銭らと{珊瑚会}を組織、第1回展を開催。

民本主義・1916=39歳：_結城・松岡映丘らと{金鈴社}を結成、研究・作画に精進、日本・中国の古典に対する観照を深め、

ロシア革命・1917=40歳：*文展で「予譲」が特選となり、画壇における地位を確立。国民新聞社は勤務自由になる。

本格政党内閣1918=41歳：_田口掬汀とともに、議会で帝国美術館建設建議案提出のため奔走。「百穂画集」が刊行される。

ベトナム条約・1919=42歳：_世田谷三宿に画室を建て、画塾{白田舎}を開いて、後進の指導を始める。

大暴落・1920=43歳：_九州大演習を陪観し、東宮の命で「耶馬溪所見」「大演習実写」を描いて献上。

原敬首相暗殺1921=44歳：

水平社結成・1922=45歳：*{金鈴社}解散。帝展審査委員に任命され、以後、毎年つとめる。

治安維持法・1925=48歳：朝鮮美術展審査のため、京城に赴き、満州に遊ぶ。

金融恐慌・1927=50歳：世田谷三宿に新居落成し移転。アララギ派の歌人としても活躍し、歌集「寒竹」を出版、

共産党事件・1928=51歳：_秋田に赴き、御大礼記念として秋田市から献納する画帖「秋田十二景」を揮毫。

海軍軍縮条約1930=53歳：「団栗集」刊行。_ローマ日本美術展のため文部省から派遣されて、松岡映丘と渡欧。帝国美術院会員。

満州事変・1931=54歳：

五一五事件・1932=55歳：_東京美術学校教授となり、

国際連盟脱退1933=56歳：*{白田舎}第一回展を開催したが、病となり、帰郷後、脳溢血で、没した。

代表作は他に「荒磯」「堅田の一体」「春の山」など。